

日汉对照



水仙

〔日〕水上勉 著



日 汉 对 照

水 仙

〔日〕水上勉 著
柯森耀 译注

上海译文出版社

本书原文选自《水上勉全集》第
3卷、第4卷、第10卷

日汉对照

水 仙

〔日〕水上勉 著

柯森耀 译注

上海译文出版社出版

上海延安中路955弄14号

新华书店上海发行所发行

上海市印刷十二厂印刷

开本 787×960 1/32 印张 8.5 字数 134,000

1984年10月第1版 1984年10月第1次印刷

印数: 00,001—18,000 册

书号: 9188·248 定价: 0.87元

出版说明

水上勉是日本当代著名作家，1919年生于福井县。他于1948年发表第一部作品《平底锅之歌》，至1978年已出版《水上勉全集》二十六卷。其作品曾获川端康成奖、直木奖等，在日本有“多产作家”、“流行作家”之称。

水上勉的作品充满着对穷苦人民的同情，对现实的爱憎。他以悲切动人的哀调诉说“在地上爬着生活的人们”的忧愁和悲伤，这一独特风格富有艺术感染力。《水仙》中卖花姑娘贵美子受辱惨死，《越后筒石亲不知》中阿新含冤丧命，《龙爪花》中富子走投无路，都深刻地描绘出日本下层社会妇女的命运。《蟋蟀罐》则反映作家对老舍的深切怀念和对中国人民的深厚情谊。

本书可供大学日语专业学生和一般日语自学者使用。

目 录

越后筒石亲不知.....	3
水仙.....	123
龙爪花.....	173
蟋蟀罐.....	229

水仙

えちご おやしらず 越後つついし親不知

とろじ さか じゆくれんどう
杜氏とは酒づくりの熟練工のことである¹。む
かしから、なだご とう およ かんさいかくち
灘五郷はいうに及ばず²、関西各地の
しゆぞうもと きんけんかくち のうかんき り よう
酒造元は、近県各地から農閑期を利用してくる
でか せぎにん さけ さか
出稼人に酒をつくらせた³。酒づくりは十一月
の仕込みからはじまって、翌年三月冬あけで終
る。季節的にいって⁴、ゆきくに のうか かんさんき
雪国の農家の閑散期であ
った⁵。に ほんかいへん ゆき おお むら すみや
日本海辺の雪の多い村は、冬は炭焼きと
なわし ごと よくとし よゆ おわ
縄仕事ぐらいしか副業はなかったから、この酒
づくりに かせ しゆうにゆうげん
出稼ぎは、なくてはならない収入源に
なった。

とろじ さか ち ほう たんば たんば
杜氏で栄えた⁶地方は丹波である。丹波杜氏、
えちぜん えちご しゆつしんち あたま
越前杜氏、越後杜氏というふうに、出身地を頭
かん
に冠して、その杜氏の名をよんだのであるけれ
ども、丹波杜氏は ねきし よる ぜんそん
歴史も古く、全村をあげて⁷、
ろうじやくだんし なだご とう はい さかぐら はたら
老若男子が灘五郷に入った。ひと冬を酒蔵で働
かえ ささやまむら
いて帰る篠山村などは、灘にはなくてはならぬ熟

1. (杜氏とは酒づくりの熟練工のことである) = 杜氏とい
うのは、酒を醸造する熟練工を指すのである/所謂杜氏、指熟
練的醸酒工而言。
2. (いうに及ばず) = もちろん/不用説。
3. (…酒造元は、近県各地から農閑期を利用してくる出稼人に

越后筒石亲不知

所谓“杜氏”就是酿酒的熟练工人。长久以来，关西各地，尤其是滩五乡的酿酒厂一向雇用在农闲时外出做工的附近各县农民酿酒。酿酒的活儿，从十一月份下料开始，到第二年三月份冬天一过就结束。在多雪的地方，一年四季中这个季节农家是无事可做的。在日本海沿岸一带多雪的荒村，冬天只能搞烧炭和搓绳等副业，所以酿酒这个活儿是农民不可缺少的挣钱的途径。

丹波是靠杜氏繁荣起来的地方。一般在杜氏前冠上地名来称呼，如丹波杜氏、越前杜氏、越后杜氏等，其中，丹波杜氏的历史最悠久。全村男子，不分老幼，都到滩五乡去做工。尤其是篠山村农民整个冬天都在酒坊干活，这个村子被称

酒をつくらせた)“酒造元”是主语，“つくらせた”是谓语，“酒を”是“つくらせた”的宾语，“出稼人に”是补语。“近県各地から農閑期を利用してくる”是“出稼人”的定语从句。 4. (季節的にいって)=季節の上からいって/从季节上来说。 5. (雪国の農家の閑散期であった)此句省略了主语“十一月から翌年三月までは”。 6. (杜氏で栄えた)=杜氏によって繁昌した/依靠杜氏繁荣起来的。 7. (全村をあげて)=全村ごとく/整个村子。△国をあげて/举国。

練工まことの里といわれた。

十一月はじめ、北陸ほくりくや丹波いたなの農家は稲を刈り
終おえて、脱穀だつこくをすませる。あとは、女の仕事おんなに
なる。男たちは醸造元じょうぞうもとへゆく準備じゆんびにとりかかり、
月なかばの十五日くらいには蔵入りした。この物語ものがたりの
おお起きた昭和小和十二年しやうわごろは、現在げんざいのように酒造法しゆぞうほう
も機械化きかいしていなくて、ホウロウ製のタンクな
どはみられない。蔵入りした杜氏あきあらたちは、「秋洗
い」といわれる仕込桶しこみおけの洗いからはじめた。仕込
桶ぜんねんというのは、前年ぜんねんに酒を入れておいた桶からのこ
とである。それが空っぽからになっている。まず、
この桶はんざりから洗わねばならない¹。半切はんぎりといわれる
道具類どうぐも、いちいちいちいち、熱湯ねつとうをそそいで、ササラ
をかけて丹念たんねんに洗わねばならない。杜氏たんねんたちは
てんじようてんじよう天井ふんどしの高い酒蔵で、禪ぜん一つふんどしになって²、ころげる
桶ふんどしによじのぼってササラをつかった³。

十一月末に仕込桶もとに酒の配もとがしこまれたが、
いちいち、その桶きに切り火きをし祈禱きとうをするほど、
縁起えんぎをかついだ。

「切り火」とは、石英質せきえいしつの火打石ひうちしと鋼鉄製こうてつせいの火
うちがねうちがねを打ちあわせて火花ひばなを出す所作しよさをいうが、
けつさいけつさいこれが潔斎きよさいの行事で、神聖しんせいな酒の神かみに豊醸ほうじようを祈

1. (まず、この桶から洗わねばならない) = まず、この桶

为滩五乡必不可少的“熟练工人之乡”。

十一月初，北陆和丹波等地农家，割完稻，打完谷，就把剩下的活儿交给女人去干。男人们开始做去酒厂的准备。一般在中旬十五日进厂。发生这个故事的昭和十二年那年头，酿酒还没有象今天这样机械化，根本看不到搪瓷大槽。进厂后，酿酒工们首先要洗刷酿酒的下料桶，这叫作“秋洗”。这些酿酒的下料桶，就是前一年盛酒的大桶。它现在空下来了，所以首先要洗刷这些桶。名叫截鏝的工具也要挨个儿浇上滚烫的开水，用竹刷子把它刷洗得干干净净。酿酒工们在顶棚高高的酒坊里，只扎一条兜裆布，爬上滚动的大桶，用竹刷子使劲地刷洗。

十一月底，把酒曲装进下料桶。对每只桶都要一一用火镰打火作祷告，以驱邪迎吉。所谓“打火”就是用钢制的火镰打在石英质的火石上面，使它冒出火星来，由此举行斋戒沐浴的仪式，向神圣的酒神祈求酿酒成功。由老酿酒工念诵古老的祈祷文。

“嚓，嚓，打进去的正是洁净似玉的驱邪之

を洗うことから、仕事をはじめなければならない/首先，必須洗刷这些桶。 2. [禪一つになって] = (裸になり) 禪しかしめぬ姿になって / (脱光衣服) 只剩下一条兜裆布。 3. [ころげる桶によじのぼってササラをつかった] = 桶によじのぼって、ササラをつかって洗ったが、その桶はころころがった / 爬上大桶，用竹刷子刷洗。(这时)大桶(不停地)滚动。

願がしたのである¹。老杜氏むかしが昔のりからの祝詞とをあげた。

「カッチン、カッチン、切りこみましたるは²、
玉きよのようなる³潔まめの切り火ま。真正ま面しなる⁴松
尾お様さま、荒神こうじん様さま、これなる鎮守ちんじゆ様さま、産土うぶの神な様さま、
や、おおよろずかみがみさまめ、お目めざめあらせ給たうて⁵、お
立たち会あいのほど願ねい奉たる⁶。たたいま仕し込こみまし
たるは第だい×号ごうの醪もろみ。江え戸どへ出いしては江え戸ど一いち番ばん、
田いな舎なへ出いしては田い舎な一あ、甘あまく辛からく、シリピンじりの上じょう
上じょう銘めい酒しゆとならしめ給たまえ⁷。祓はらい給たまえきよめ給たまえ」

魂たましいをこめて切り火くらうちをするのである。切り火しずの音きに蔵内くらうちはシンと静しずまりかえる。ひとしお神聖きの氣きがみなぎるのは妙みょうであった。

酒造科学しゆぞうかの進かく歩しんした今日こんにあって、甘あま敗ま、酸す
敗まといわれる腐造ふぞうはなくなつたが、むかしは杜か氏んの勤ごんによって材料ざいりようが仕込し込まれたが故ゆえに、仕込し
みは重大じゆうだいな出来不出来できふの境目さかいめといえたわけであ
ろう。杜氏きんぱくたちが緊迫きんぱくした氣持きもちで切り火きもちをした
のもうなずける⁸。十二月なだはじめは、灘なだでさえ六ろつ
甲風こうおろしが吹ふいて寒さむい季節きせつだが、北陸いちん一円いちんの醸造元いんげん
でも、カラツ風かぜが吹さかいて、酒倉さかぐらのならんたにだ谷底ごこ
のようるな露地るじをゆく人よびとは、冬半纏ふゆばんてんをまとっ

1. (これが潔斎の行事で、神聖な酒の神に豊饗を祈願したのである) = これが潔斎の行事というものであって、それによ

火。正面的松尾神、荒神、眼前的本地守护神、出生地守护神、千千万万诸神，请开慧眼，临场庇护。适才下料的是第×号醪槽，但愿它能酿成又甜又辣、芳香扑鼻的上好醇醪，拿到江户，则被誉为江户第一，送到乡下，则称得上乡下首位。敬请被除不祥，祐我纯净。”

他们虔诚地打火。酒坊里鸦雀无声，只有打火的声响。说也奇怪，这时四周笼罩着格外神圣的气氛。

今天酿酒科学有了很大进步，再也不会发生过甜、过酸那种酿坏的现象。可是，从前是依靠酿酒工的经验下料的，因此，下得好不好是决定酿酒成败的关键。酿酒工打火时心情紧张万分，那也是情有可原的。十二月初，隆冬季节，连滩五乡都受到六甲山风的侵袭。北陆一带的酿酒厂也刮起干燥的寒风，在酒库林立、山沟似的小巷

って神聖な酒の神に醸造がうまく行くように祈ったのである/这就是所谓斋戒沐浴的仪式，由此向神圣的酒神祷告酿酒取得成功。 2.〔切りこみましたるは〕=切りこみましたのは/打进去的… 3.〔玉のようなる〕=玉のような/似玉。 4.〔真正面なる〕=真正面にいらっしやる/在正面的。 5.〔お目ざめあらせ給うて〕=お目ざめになって/请醒一醒。 6.〔お立ち会いのほど願ひ奉る〕=お立ち会いくださるようお願い申し上げます/请到场。“奉る”，文言用语，接动词连用形，表示尊敬。△新年を賀し奉る/恭贺新年。 7.〔シリピンの上々銘酒とならしめ給え〕=味のよい上等な銘酒にさせてください/请使其成为上好名牌酒。“シリピン”指酒味醇厚。 8.〔うなずける〕=理解できる=もっともだと思ふ/可以理解。难怪。

ていたが、蔵の中では、向う鉢巻むこ はちまきに襦袢じゆばんいちまい一枚、
襦ふんどし一つの杜氏たちが、手の切れるようなれいすい冷水
で米をといでいた。とき水は蔵の中にある井戸
からはねつるべで汲くまれた。夜よるといわず、昼ひると
いわず、はねつるべを釣りあげる役目やくめを「釣り
屋や」といい、この男は、素足すあしで井筒いづつの上の足場あしばに
またがり、あとび「後曳き」といわれる男は、天枰てんびんの両
端はしにゆわえた綱つなをかわるがわるに引いてゆく。

昼夜ちゆうやをわかたぬろうどう労働なので、杜氏たちは交
代たいで寝たが、寝所しんじよは、蔵の天井裏てんじょううらにある三角部
屋やで、昼ははずされてある梯子はしこをたてかけ、寝
るものはこの暗い屋根裏くらやねうらにのぼった。板いたの上に
むしろを敷いただけのただ広い部屋へやに、一本の
横木よこぎが寝かされていた。これが枕まくらであった。う
すいふとんをかぶって、木の枕まくらに頭あたまをならべて
寝るのである。交代時間じかんがきても寝ていること
があるので、老杜氏きしやうは、起床あいずの合図に、枕まくらの木
を撲りつけた。

「釜入れ」、うちび「打火」、おりび「もっこ」、おりび「滓引き」、おりび「滓揚
げ」といった順序じよんじよに、十一月に仕込んだ酒桶さけかはそ
れぞれの工程こうていを経て三月に入ると、澄んだ清酒せいしゆ
となって桶にたたえられる。

1. (手の切れるような) 在此，意为“寒冷刺骨”。 2.

里，过往行人都穿上了冬天的短袍子。可是，在酒坊里，头缠布巾，只穿一件内衣、扎一条兜裆布的酿酒工们却在用冰冷刺骨的水淘着米。淘米水是用桔棒从酒坊里的一口井里提上来的。不分昼夜，操作桔棒提水的，叫作“提水工”。他光着脚，跨在井沿上。另一个叫作“拉绳工”的工人，在旁边交替地拉起绑在杠杆两端的绳子。

这是日夜不停的劳动，所以，酿酒工们换着班睡觉。他们睡觉的地方是酒坊顶棚里的三角形阁楼。天花板上开有一个洞口，有一架梯子，白天拿开。要睡觉时，就把梯子搭在洞口爬上去，钻进漆黑的阁楼里去。那是个空空荡荡的房间，只在木板上铺着席子，还搁着一根横木，当枕头用。酿酒工们盖着单薄的被子，头枕横木，并排睡觉。有些人往往到了接班时间还睡不醒，所以老酿酒工得敲响横木，把人喊醒。

经过“下料”、“打火”、“中间返乡休息”、“沉清”、“去滓”等程序，十一月下料的酒桶，到了第二年三月，就盛满了晶莹透明的清酒了。

〔昼夜をわかつぬ〕 不分昼夜。此句等于“昼間であろうと、夜中であろうと(ひきつづきやる)/不管是白天、黑夜，都得不倦地干。 3.〔昼はずされてある梯子をたてかけ〕=昼間は梯子をはずしてあるが、寝るものはその梯子をたてかけ/白天移开梯子，要睡觉的人就得把梯子搭上去。 4.〔一本の横木が寝かさされていた〕=一本の横木を横たえていた/横放着一根横木。

これで、杜氏の仕事は終るのであった。酒蔵
にならんだ桶の中に満々とみたされた黄金水を
あとにして、杜氏たちは故郷へ帰る。三月十五
日ごろ出立となる。北陸路では雪がとけて、女
たちが苗代の畦打ちにとりかかり、タネ米をぬ
るんだ川水につけて待っていた¹。

杜氏たちが、酒蔵の中で、仕事をしながら口
ずさむ歌にこんながある。

お日はちりちり山端にかかる。

わしの仕事は小川ほど²。

お日が暮れたら、あかりをつけて、親の名
づけの妻を待つ。

親の名づけの妻さえあれば、わしもこの様
に身は捨てぬ。

何もこの世に身を捨てなよと、後にことば
をのこされた³。

仕舞うて帰にやるか⁴有馬の駕籠衆、おだて
河原をたよたよと。

おだて河原をたよたよ越えて、あいの小川
の数知れぬ⁵。

1. [待っていた]=男たちが帰ってくるのを待っていた/
等着男人們回來。 2. [わしの仕事は小川ほど]=わたしの
仕事は小川のように尽きない/我的活儿好象小溪流不尽一般干
不完。 3. [何もこの世に身を捨てなよと、後にことばをの
こされた]=親は死ぬるときにこういうように言い残した——

酿酒工的活儿到此结束。酒库里一排排酒桶，已经盛满了金黄色的琼浆玉液。酿酒工们向这一切告别，回家乡去。他们一般在三月十五天左右动身。那时候，北陆一带积雪已经融化，女人们开始修筑秧田的埂坎，把稻种浸泡在变暖的河水里，等待男人们回来。

酿酒工们在酒坊里一面干着活儿，一面顺口哼唱着这样的小调：

日头沉沉落西山，
活儿如水干不完。
日暮挑灯把妻等，
父母许配好侣伴。
倘有这份好福气，
不致冷漠象今天。
切莫流落在他乡，
父母遗言响耳边。
有马轿夫往回转，
摇摇摆摆走河滩。
爱情小河数不清，
摇摇摆摆走不完。

「けっしてこの世に身を捨てるな」と/父母临终嘱咐：“切莫弃身于世。” 4. (仕舞うて帰にやるか)=仕事を終えて帰って行くのか/干完活儿，要回去了？ 5. (あいの小川の数知れぬ)“あい”是双关语，即“愛(あい)”和“間(あい)”之意。等于“その間には愛の小川が数知れぬほどある”/在当中有数不清的爱情小溪。“数知れぬ”，意为“不知其数”。

まつ 松となりたや、ありま 有馬の松に¹、よじ 藤にまかれて、
寝とござる²。

なだこ ごう ど ぞう きかぐら かべ
歌は灘五郷の土蔵づくりの酒蔵の壁にしみた
が、村に残した妻を思うて歌ったものでもあろ
う。

二

えちご おやしらず だんがい そ わ
越後の親不知から、断崖を削ぎ割ったように
して入りこむ歌川の溪流にそい、約五キロばか
り山奥へのぼりつめたところに、歌合という寒
村があった。

こ、すう こ お けいとく しやめん
戸数わずかに十七戸。落ちこんだ溪谷の斜面
にへぼりついたようにしてある、この村の石置
き屋根の粗未な家々をみていると、どうして、こ
んな辺鄙なところに暮さねばならないのかと、
ふしぎ おも わび
不思議に思われもする³ほど侘しかった。

村は⁴それでも溪流から竹桶で水をとって、石
垣をつみ重ねてつくったせまい田畑に、陸稻、
かんらん むぎ いもるい せいげい
甘藍、麦、芋類などをつくって生計をたててい
た。なにぶんとも⁵天下の難所といわれた北陸道
ずいいち けわ
随一の峻しい山にかくれた雪ぶかいところで

1. (松となりたや、有馬の松に) = 松になりたいものだ、有馬の松になりたい/我真想变成松树, 变成有马的松树。“有马”, 地名, 位于神戸市兵庫区。 2. (藤にまかれて、寝とござる) =